

【令和5年度 麻生区 研究経過中間報告書】

1. 研究主題 自ら健康に関心をもてる子どもの育成 ～姿勢指導を通して、自分の体と心に意識を向ける～

2. 主題設定の理由とねらい

麻生区養護研究会では、子どもたちの健康課題を話し合ったところ、子どもの姿勢が気になるという声が多く挙がった。子どもたちの姿勢に対する意識の低下や、GIGA 端末を使用する機会が多くなったことなどから、正しい姿勢を身に付けることの必要性を感じ、姿勢指導に焦点をあてて研究を進めることにした。どのような指導をすることが子どもたちにとって効果的かを探るため、「日常の取組からのアプローチ」「学級活動をきっかけとした継続的なアプローチ」「GIGA 端末を使う際のアプローチ」の3つのグループに分かれて姿勢指導についての研究に取り組むこととした。

3. 研究経過

令和3年度は「自ら健康に関心をもてる子どもの育成」をテーマに、麻生区内各校の養護教諭が捉える子どもの健康課題について話し合い、育てたい子ども像について考えていった。様々な健康課題が挙げられたが、中でも姿勢が心身に与える影響は多岐にわたり、姿勢を改善することで他の健康課題の解決にもよい影響をもたらされるのではないかと考えた。具体的な内容を、「姿勢と疾病の関わりについての指導」「動きを取り入れた指導」「GIGA 端末を使う際の指導」の3つに絞り、姿勢と心の関連性についてはそれぞれに含める形とした。先行研究にもあたり、実態把握の方法等を共通確認した。

令和4年度は指導場面ごとに「日常の取組からのアプローチ」「学級活動をきっかけとした継続的なアプローチ」「GIGA 端末を使う際のアプローチ」の3つのグループに分けた。各グループで、子どもが姿勢（体と心）に意識を向けたり、姿勢指導を通して自ら健康に関心をもったりするために効果的な指導を検討し、全体への共有を繰り返しながら研究を進めた。

4. 研究成果

昨年度末に指導主事に研究経過、今後の進め方、地区として確認したい事項等を取りまとめて送り、5月に回答をいただいた。その内容をふまえ、引き続きグループごとに目指す児童の姿に向かって実践を継続していった。他のグループで効果的だった指導を自校の指導に取り入れたり、自校の実態に合わせて場面や指導方法を工夫したりした。

5. 今後の課題

指導場面ごとの3グループで研究を進めてきたが、他の2グループよりも扱う範囲が広い「日常の取組からのアプローチグループ」の実践を他のグループでも取り入れて、グループを越えた実践から見えてくる課題を共有・整理してさらに研究を深めていきたい。実践のあと、地区として子どもの変容を評価し、見えてきた成果と課題を整理し、研究のまとめとしたい。